

平成23・24年度特別支援教育総合推進事業

「特別支援教育に関する教育課程の編成等についての実践研究」報告書

Ⅱ 詳細報告 (徳山総合支援学校)

研究の柱と内容

平成23年度の取組のまとめ

年度	取組の柱	取組の項目・内容
平成23年度	<p>①知的障害のある自閉症の児童生徒への効果的な指導内容・方法等の検討</p> <p>②外部専門家や関係機関との連携・協力体制による指導・支援の改善充実</p>	<p>1 自閉症教育に関する現状分析</p> <p>○「学校全体で自閉症教育に取り組むためのチェックリスト(国立特別支援教育総合研究所)」による本校の状況調査</p> <p>○地域の特別支援学級を対象とした自閉症教育現状調査(山口総合支援学校と同項目による地域調査)</p> <p>2 教育課程の改善研究(教育内容の検討)</p> <p>○本校アンケートに基づく教育課程編成基準の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自閉症のある児童生徒の生活上の困難や課題、必要となる指導内容等 <p>○外部専門家、地域の関係機関や特別支援学級との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自閉症の特性に応じた日常の生活指導や支援の在り方についての助言 ・特別支援学級と連携した地域実践交換会
平成24年度	<p>①②は、継続</p> <p>③自閉症のある児童生徒の教育課程についての見解の整理</p>	<p>1 教育課程の改善研究</p> <p>○自閉症の特性に応じた教育課程の捉えの検討(各学部)</p> <p>2 各学部における授業実践をととした指導支援の改善充実</p> <p>○授業公開及び授業研究会</p> <p>○小学部…生活単元学習、音楽科を中心に キーワード「主体性」「達成感」</p> <p>○中学部…生活単元学習を中心に キーワード「見通しをもたせる」「集団の中で個を活かす」</p> <p>○高等部…作業学習を中心に キーワード「卒業後を見据えた授業作り」</p> <p>3 地域の外部専門家や関係機関等との連携</p> <p>○地域の特別支援学級との連携したケース会議や実践交換会</p> <p>○地域の幼小中高校及び保護者を対象とした講演会</p> <p>○研究内容の共有(研究だよりの発行)</p>

1年次には「自閉症の特性に応じた指導内容・方法の工夫の整理」に重点を置き、教科・領域別の実践研究により、効果的な指導・支援の成果や課題を洗い出した。

教科・領域別にみる指導内容・方法の違いにおける見解

○『日常生活の指導』グループのまとめ

学齢期低学年の食事指導や排せつ指導、睡眠を含めた生活リズムの確立などが大切であり、これらをしっかり確立させることが発達の促進を考える上で必要である。

自閉症の障害特性に起因する事例

感覚過敏が原因の偏食
(≠単なる好き嫌い)

場所へのこだわりが原因で、
特定のトイレにしか入れない

自閉症のある児童生徒と自閉症のない児童生徒に対する指導では、指導のねらいや配慮事項に明確な差異が生じる。

○『生活単元学習』グループのまとめ

自閉症の特性に配慮した視点（コミュニケーション、見通しをもたせる、興味関心を広げる）の設定の割合

【表1】単元のねらいの比較

単元のねらい	自閉症の児童生徒で構成した集団	自閉症のない児童生徒で構成した集団
コミュニケーション	45%	38%
見通しを立てる	<u>79%</u>	50%
興味の幅を広げる	67%	69%

自閉症の児童生徒が在籍する学級では、「見通しを立てる」ことをねらった単元を多く設定している。

平成24年度の取組のまとめ

2年次は学部ごとの研修とし、1年次の成果を元に授業実践を積み重ねていく中で、各学部が自閉症の学習グループ編成について再整理し、キャリア教育の見地も踏まえながら自閉症の障害特性に配慮した教育課程編成における学校としての見解をまとめた。

①自閉症の障害特性に配慮した教育課程編成における学校としての見解

ア 指導時数による比較

- 小学部・中学部では、自閉症の障害特性を考慮した教育課程を編成
- 高等部では卒業後の進路を見据え、目指す将来像を考慮した教育課程を編成

【表2】類型別指導時数表

小学部	I 自立活動中心		II 自閉症		III-1 教科の指導		III-2 合わせた指導	
	1・2・3	4・5・6	1・2・3	4・5・6	1・2・3	4・5・6	1・2・3	4・5・6
学年	1・2・3	4・5・6	1・2・3	4・5・6	1・2・3	4・5・6	1・2・3	4・5・6
日常生活の指導	12		12	14	12	14	12	14
遊びの指導					1		3	1
生活単元学習			1		3	5	2	4
生活								
国語			2		2		2	
算数					1			
音楽	2		2		2		2	
図画工作			1		1		1	
体育			2		2		2	
道徳					*			
特別活動					*			
自立活動	12	14	6		2	1	2	
総授業時数	26	28	26	28	26	28	26	28

中学部	I 自立活動中心			II 自閉症 中・重度コース 自立活動重視			III 知的障害 自閉症 中・軽度コース		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3
学年	1	2	3	1	2	3	1	2	3
日常生活の指導	15			15			12		
生活単元学習	2			3			4		
作業学習	1			1			2		
国語				1			2		
社会									
数学				1			2		
理科									
音楽	1			1			2		
美術				1			2		
保健体育	1			1			2		
職業家庭									
外国語									
道徳				*					
特別活動	1			1			1		
自立活動	8			4			*		
総合的な学習の時間	各学期に20時間程度実施								
総授業時数	29			29			29		

高等部	I			II			III		
	身辺自立 生活自立 自立活動重視			身辺自立の確立 基本的生活習慣の確立 生活自立 生単・作業学習重視			基本的な生活習慣の確立 職業参加 生活自立 教科・作業学習重視		
学 年	1	2	3	1	2	3	1	2	3
日常生活の指導	10			10			9		
生活単元学習	6			4					
作業学習				8			8		
国 語				1			1		
社 会							1		
数 学				1			1		
理 科							1		
音 楽	2			2			2		
美 術	1			1			1		
保健体育	2			2			2		
職 業							1		
家 庭							1		
道 徳				*					
特別活動	1			1			2		
自立活動	8			*			*		
総合的な 学習の時間	1, 2学期に実施(105時間程度)								
総授業時数	30			30			30		

イ 自閉症に配慮した指導時数（Ⅱ類型）の特徴

○小学部：自閉症の障害特性であるイメージすることの困難さに配慮し、遊びの指導の時間を設けていない。

- ・指示された活動をこなすことはできても、遊びを創り出したり、自由に組み立てたりすることが難しい傾向があるため。
- ・個々の興味関心が限定的、個別的であり集団活動の設定が難しいため。

○中学部：集団活動への参加や長時間の活動に対する見通しのもちにくさ等に配慮し、2校時に教科等(集団指導)、3校時に自立活動(個別指導)という指導の流れを基本としている。

中学部Ⅱ類型の週時程表

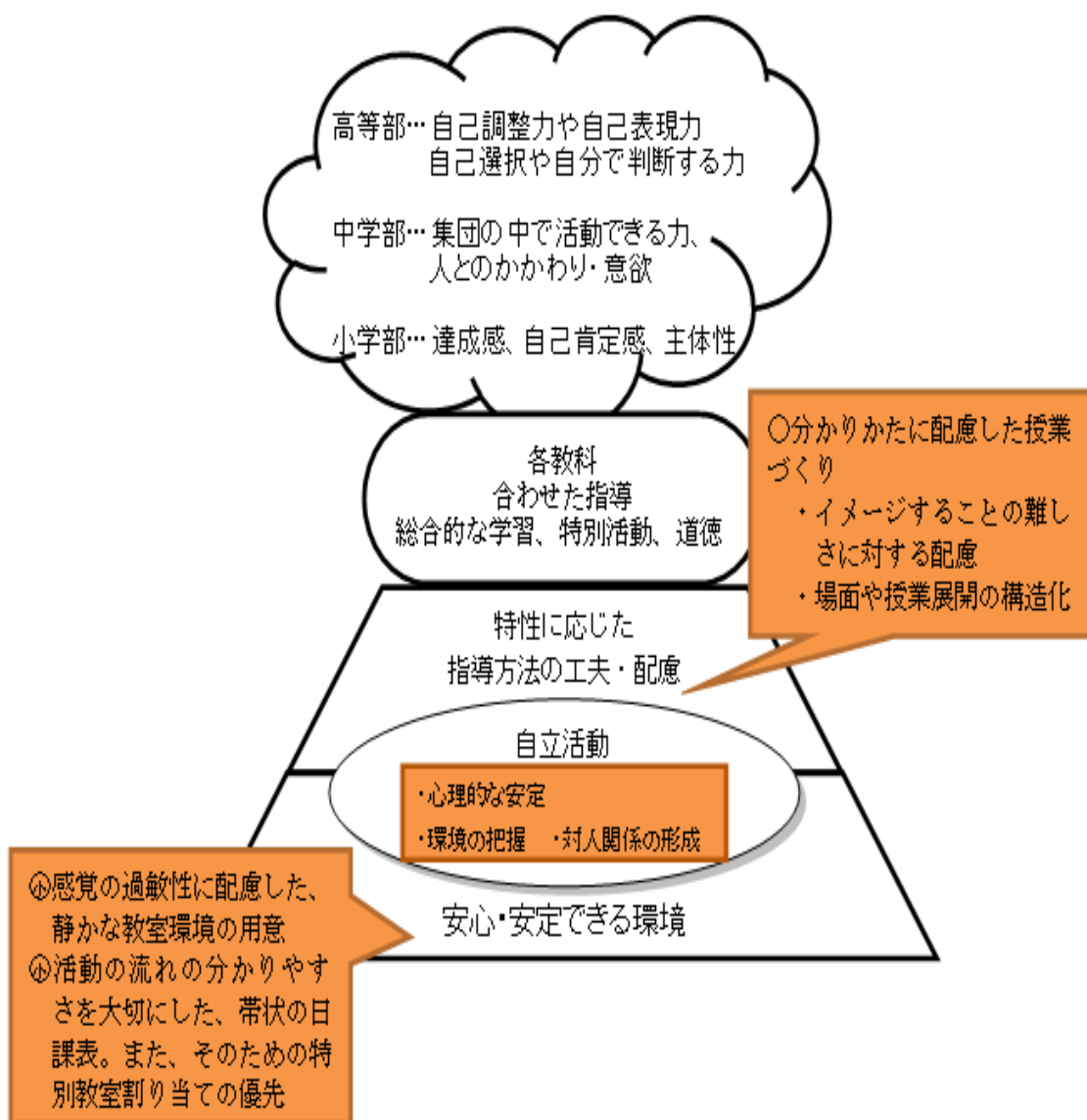
中学部Ⅲ類型の週時程表

	月	火	水	木	金		月	火	水	木	金
1	日常生活の指導					1	日常生活の指導				
2	特活	国・数	生単	美・作	国・数	2	特活	国・数	生単	美・作	国・数
3	自立活動					3	生単	国・数	生単	美・作	国・数
4	日常生活の指導(給食)					4	日常生活の指導(給食)				
5	美・作	体育	日生	生単	体育	5	美・作	体・音	日生	生単	体・音
6		音楽			音楽	6					
7	日常生活の指導		日常生活の指導			7	日常生活の指導		日常生活の指導		

ウ グループ編成の＜視点＞

○学年を基本としたグループ編成を基盤としながらも、多様な集団で学習できるようにする。

- 低学年の間は、集団を固定化することで変化を最小限にするようにして、学校生活全般が安心して過ごせる場となるよう、配慮する。
- 集団活動に参加する中で、児童生徒が互いに成功や喜びを共有したり、憧れ等をもったりし、共に成長することができるよう集団及び個別のコミュニケーション指導を重視する。
- 自閉症のある児童生徒が、多様な集団の中でも安心して過ごし、所属する集団が育っていくプロセスに参加できるように、一貫性、系統性のある指導・支援とともに児童生徒間の人間関係を十分考慮する。



【図 1】 集団編成における考え方（自閉症の児童生徒に対する観点）

②自閉症のある児童生徒と自閉症のない児童生徒の指導内容・方法の違いの考察

ア 小学部音楽科の実践から

比較の観点	自閉症の障害特性と考えられる対応	自閉症がない
年間指導計画	興味関心の狭さ →1回の授業の中に「鑑賞」「身体表現」「器楽」「歌唱」「音楽あそび」の5つの観点をねらった活動を年間を通してバランスよく配置	学期ごとに観点に重点をおいて計画することが可能
指導内容の選択	同一性へのこだわり イメージすることの困難さ →同じ題材を使う中で指導内容を変更	授業で扱う題材や流れに変更を加えて興味関心を広げることが可能
展開の工夫	同一性へのこだわり →活動の流れを固定し、その流れの中で題材を変更（特に初めと終わりの活動を固定し、音楽の授業の始まりと終わりに気づきやすくする。）	
教師の働きかけ	コミュニケーションの困難さ 指示理解の困難さ →言葉かけの精選とタイミング	言葉かけを多くしてモチベーションを上げることが可能
教材の工夫	聴覚の過敏さ →具体物の操作や体験的活動の重視、自作を含めた楽器の精選 視覚優位、 イメージすることの困難さ 細部への過度の注目 →歌の内容に合わせた視覚教材の提示による見るべきところの明確化	具体物の操作や体験的活動を多くして理解を促したり、興味関心を広げたりすることが可能
空間の設定	細部への過度の注目 情報を統合することの困難さ →不要な刺激への配慮や授業を行う空間が安心して過ごせるようなスペースの使い方を意識	興味関心を広げる空間設定が可能
集団活動としての工夫	コミュニケーションの困難さ 指示理解の困難さ →距離感やキーパーソンの保障 集団を見渡せるような円形の座席配置	かかわりあいを意識した題材の設定が可能
児童の反応	コミュニケーションの困難さ →表情に現れにくかったり、表現が表出するまでにタイムラグがあったりすることに対する教員の理解が必要	感情が表情や動作に表出され、リアルタイムにかかわり合いが可能

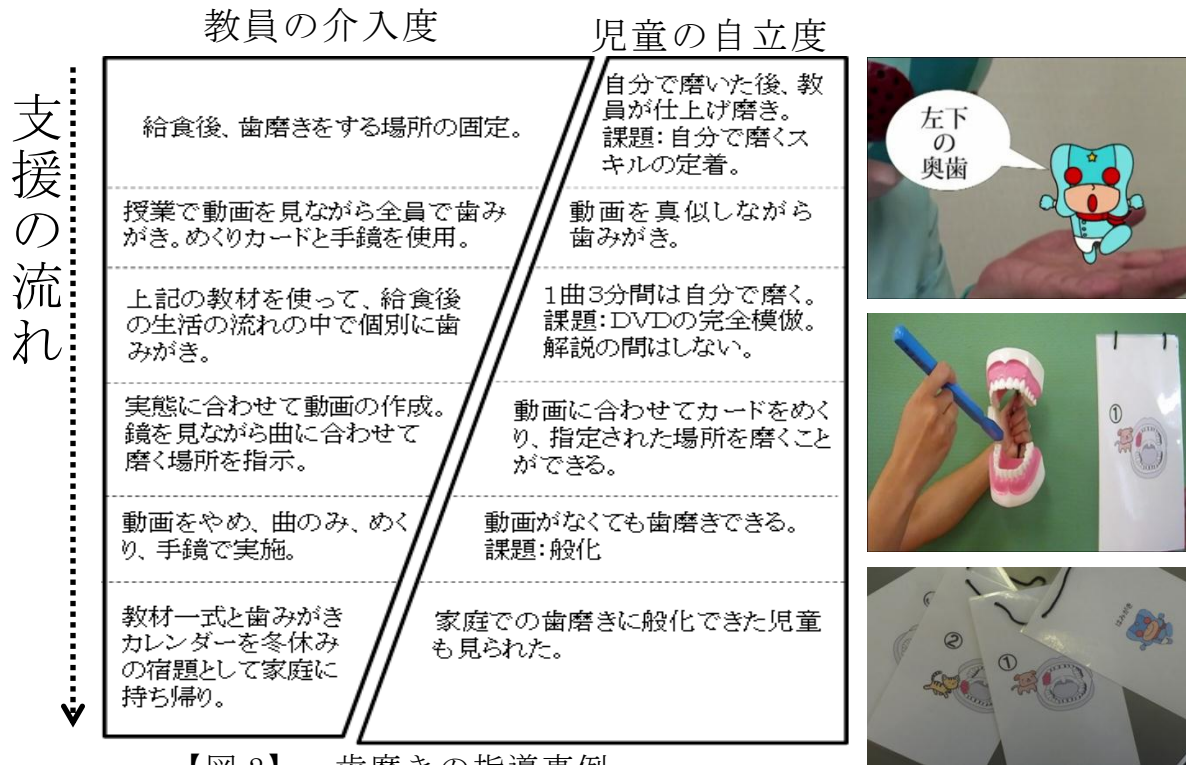
○自閉症のない児童にとっては有効な支援が、自閉症のある児童にとっては必須である。

イ 小学部生活単元学習の実践から

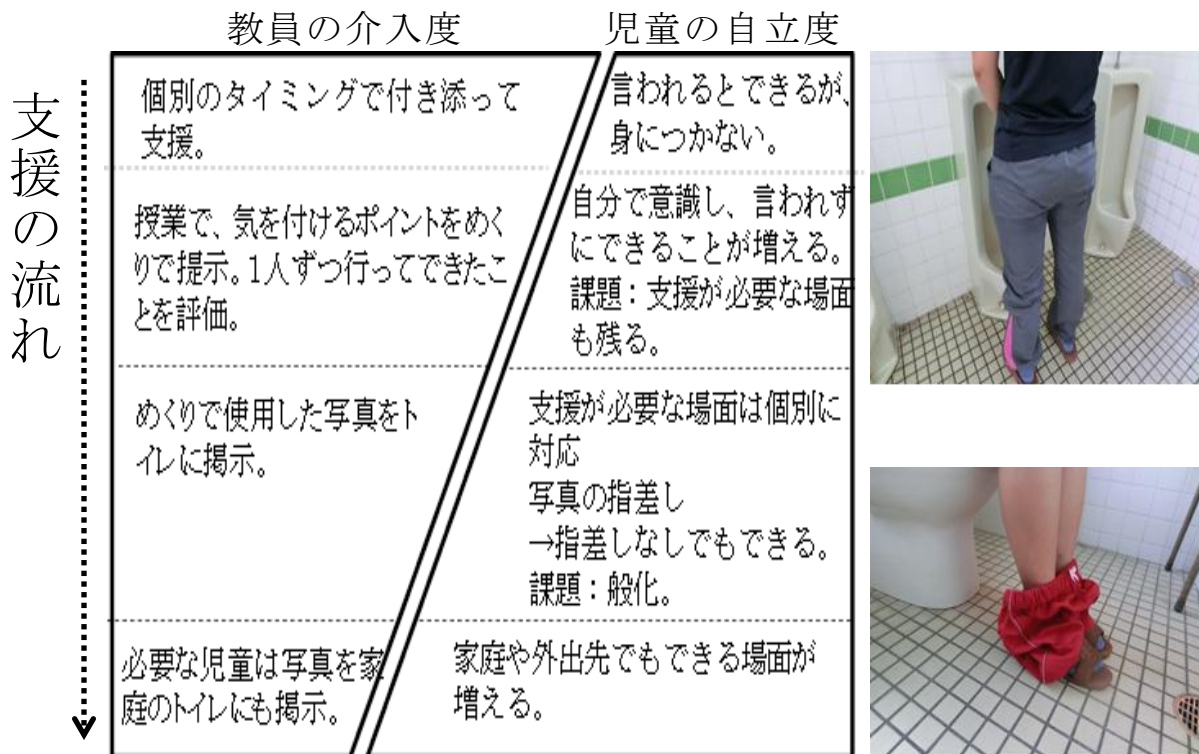
比較の対象	自閉症の障害特性と考えられる対応	自閉症がない
健診事前学習	<p>見通しをもつことの困難さ 感覚の過敏さ フラッシュバック →児童の不安を払拭するために年間指導計画に設定。(自立活動2-(2)『心理的な安定：状況の理解と変化への対応』のねらいが大きい)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の様子を見る。 ・ 手鏡を使う。 ・ 実際の検査器具に触れる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> 納得することで不安感を軽減 </div>	<p>これまでの生活経験より、年間指導計画に設定しない。</p>
調理学習・買物学習	<p>見通しをもつことの困難さ 変化へ対応することの困難さ →一連の流れを構成する活動ごとに、1時間の授業で完結する学習内容で一定期間繰り返す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 買い物や道具のスキルの獲得 ・ 手順書の使い方の習得 ・ 自己決定 ・ コミュニケーション ・ 集団参加 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> 繰り返し行うことで見通して行動できることを重視 </div>	<p>栽培→会食の計画→買い物→調理の一連の流れの中に位置づけて実施する。</p>
修学旅行の事前学習	スケジュールの伝え方	
	<p>見通しをもつことの困難さ 時系列の把握の困難さ 全体像を捉えることの困難さ 視覚優位 →必要な情報を2日前を目安に提示 (クラスの児童のこれまでの生活体験を考慮し、児童が自分で分かり、イメージすることができる範囲が2日前と判断)</p>	<p>2週間前に大まかなスケジュールを提示 その後児童の知りたい要求に合わせ、学習内容を発展</p>
	初めての場所での活動	
	<p>般化の難しさ イメージすることの困難さ →手順書等の視覚的支援やマニュアル化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公共施設の使用 ・ 歯磨きやトイレの使い方 ・ 買い物 	<p>学校や家庭での経験の応用が可能</p>
生活学習に関する内容	<p>般化の難しさ 一定の手順や自分のやり方に対するこだわり →日常生活に必要な「歯みがき」「トイレの使い方」「うがい・手洗い」などを行事等の時期も考慮して設定</p>	<p>靴洗いなど、日常生活に必要なことを曜日を決めて年間を通して実施</p>

③自閉症の障害特性に応じた指導内容・方法の工夫

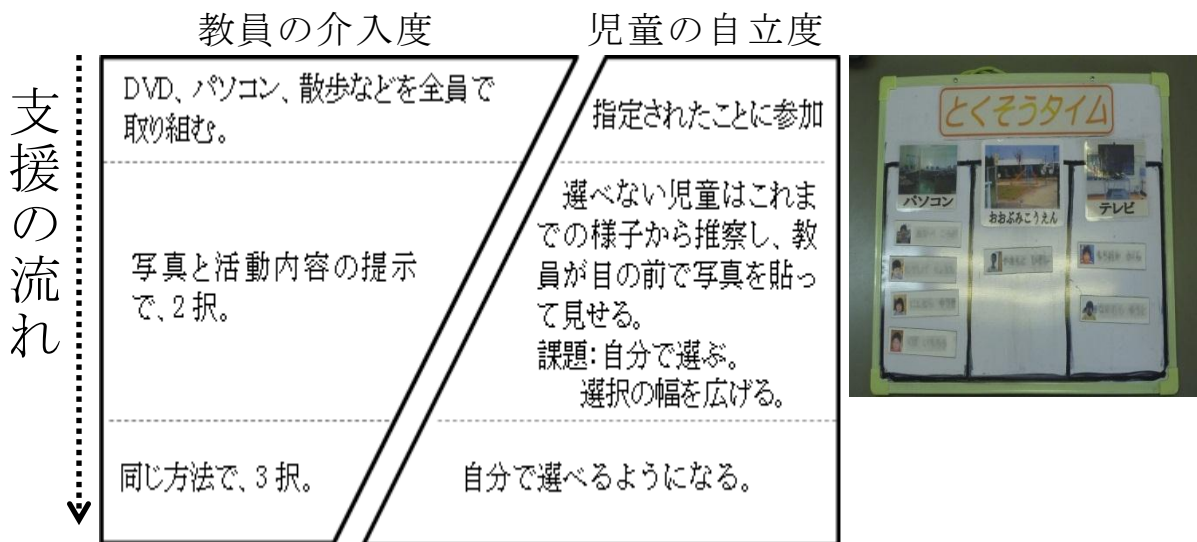
ア 生活に関する学習内容の指導事例（小学部の実践から）
～自立度を上げるための支援のつながり～



【図2】 歯磨きの指導事例



【図3】 トイレ指導の事例



【図4】とくそうタイム（余暇時間の自己決定）の指導事例

イ 行事や日課変更に対応できるようになるための指導事例（中学部の実践から）

自立活動の指導「見通しをもって生活しよう」	
区分・項目	
2	心理的な安定 (1) 情緒の安定に関すること。
3	人間関係の形成 (1) 他者とのかかわりの基礎に関すること。
6	コミュニケーション (1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること。
1 児童生徒の状況	
○ 中学部 1年 男児 知的障害（自閉症）	
○ 障害の状態	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境の変化、一日の流れの変化に弱く、日課の変更を伴う行事への参加が難しい。情緒が不安定になると他害行為がある。 ・ 多動性であり、興味があるものや場所に向かって突然走り出す。 ・ ジェスチャーや指さしで、自分の興味を伝え、やりとりを楽しむ場面もある。 ・ 発語はないが、特定の発声（イヤ、アなど）があり、思いを伝えようとする。 ・ 日常の簡単な指示を理解している。 ・ デジタルの時計を読み取り、時間を意識して行動している。 	
2 指導目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学部での生活のリズムを掴み、落ち着いて行動できるようにする。 ・ 活動内容を理解させながら、運動会や文化祭などの行事に見通しをもって段階的に参加できるようにする。 ・ スケジュールで一日の流れを確認し、見通しをもって生活できるようにする。 	

3 指導内容

(1) 指導内容

- ・安定して取り組める好きな活動を増やす。学校を楽しい場所に変えていく。
- ・スケジュールを見て日課や時間の確認を行い、活動を切り替えることを促す。

(2) 指導内容設定のポイント

- ・多動性・衝動性から安全に配慮し、行動の制限を指導の方針としていたが、積極的に楽しめる活動をできる限り設定し、教員と一緒に楽しめる経験値を増やす。

4 指導場面

- ・日常生活の指導時間を中心に、学校生活全般で指導する。

5 指導及び支援のポイント・手だて

- ・教師との楽しい時間の共有や歩調を合わせることを意識できるように配慮した。
- ・本人が理解できる活動内容の写真等から、本人が活動を選択できるようにした。
- ・教室を移動する場合は、スケジュールで場所の写真を確認するようにした。
- ・教室移動ができる→活動に参加できる→活動を楽しめる→活動時間を長くする→授業が終わるまでその場にいる→授業が終わるまで活動に参加できる、というように、段階的に指導し、その都度の頑張りを称賛した。

6 活動の展開・指導経過・生徒の変容

(1) 学校で楽しめる活動づくり

- ・休み時間や自立活動の時間に教員と一緒にいろいろな活動を行うことができるようになった。(自転車、DVD、音楽ボード、ウォーキングなど)
- ・突発的に走っていなくなることが少なくなり、要求があるときは教員に訴えることが増えた。
- ・ホームルームで過ごす時間が増え、自然と友達との関わりが増えた。

(2) 見通し

- ・スケジュールで次の活動を確認することを通して、見通しをもつことで、今日は何曜日で何の授業があって、この時間は好きな教員と活動できるなどをジェスチャーや発声などで訴えるようになった。
- ・一日や週の時間割がパターン化されることにより、安定して教室移動や活動へ参加できるようになった。

(3) 行事への参加

- ・行事等により日課が変更される場合には、前もって変更を伝え(視覚的・聴

覚的に) 活動場所や一緒に活動する教員等の確認を行った。

- ・ 苦手な行事では、活動場所に移動できても、他傷行為やパニックになることが多く、活動に参加することが難しかったが、活動場所の中に落ち着けるスペースを確保し、スキンシップを続けながら、安定するまで寄り添って待った。
- ・ 練習の回数を重ねる毎に、安定してその場にいることが増えた。また、少しずつ活動に参加し、取り組める時間も増えた。

7 検討課題・改善点

○人間関係の広がりを充実させるとともに、集団参加を促したい。

- ・ 安心して一緒に活動できる教員を増やす。
- ・ 担当以外の教員や他の生徒との関わりを増やす

ウ キャリア教育の視点から見た生徒の変容に関する指導事例（高等部の実践から）

生徒の実態と支援の方針

Ⅲ類型（基本的生活習慣の確立、職業参加や生活自立を目指す教育課程）で学ぶ自閉症。自ら作業や学習しやすい環境を作ったり、改善したりすることが難しく、一度感情が乱れるとなかなか気持ちの切り替えができず、その間は指示に応じることができない傾向がある。よって自己の行動を管理したり、自己の気持ちを調整したりする力、すなわちセルフマネジメントの力をつけることが大切となる。

指導に当たっては、児童生徒の発達段階ごとに具体的な支援方法がまとめている先行研究「特別支援学校キャリア教育プログラム(2007 広島県)」を活用し、生徒の課題がキャリア教育プログラムにおける10の観点のどこにあたるのかを把握し、そこから具体的な支援方法を抽出した。また、集団の中での個別の支援を行い、できるだけ集団の中で一緒に活動や学習ができるようになることで、生徒同士が互いに理解し合い、お互いに配慮の仕方が分かることで、より集団の成長に相乗効果が生じることを期待した。

キャリア教育の視点から見た生徒の変容

< 事例 1 >

課題	落ち着いて課題に取り組み、課題を最後までやり通すことができる。(キャリア：調整、技能)		
教科等	国語	集団	クラス(6人)
支援	意欲的に取り組めるように、書写内容を対象生徒の好きな鉄道関連の文章にする。		
変容	興味のわからない内容であっても、クラスメイトと一緒に最後まで書写することができるようになった。また、漢字の読み等の質問に対して、積極的に答えるようになった。		

< 事例 2 >

課題	作業や活動の中で、道具を適切に使用することができる。(キャリア：技能、見通し、調整)		
教科等	家庭	集団	クラス (6人)
支援	エプロン製作では、時間に余裕をもたせ、クラスメイトを見本にし、作業の見通しがもてるようにする。ミシン操作を好きな列車の運転に見立てて、技術指導をする。		
変容	本人の中に、クラスメイトを意識して、同じ作業をする意欲が出てきた。ミシンに興味をもち、教員に言葉がけされながら、エプロンを一人で縫いあげた。		

< 事例 3 >

課題	自分の思いや意思と違うことでも、自己調整をして取り組むことができる。(キャリア：集団、見通し、調整)		
教科等	作業 (縫工)	集団	1～3 学年 (6人)
支援	ビーズ製作では、ビーズを色・形・数でカップに小分けにし、通す順番にカップを並べたり、カップの中身がなくなれば終了したり、見通しをもたせるようにする。スモールステップで課題の難易度を上げていく。		
変容	落ち着いて時間いっぱい作業に取り組めるようになり、作業速度も上がった。ミスのやり直しにも、素直に応じることができるようになった。		

< 事例 4 >

課題	自分の苦手なことをする時でも、落ち着いて作業に取り組むことができる。(キャリア：調整、技能)		
教科等	日常生活の指導 (情報)	集団	クラス (6人)
支援	苦手なパソコン作業では、タイムアウト (落ち着ける場所への移動) を教え、申出やすい雰囲気作りに配慮する。クリップアートの挿入等、限定した作業に取り組ませる。		
変容	「教室に戻ってもいいですか」と言えるようになり、次第に、落ち着いて好きな電車のイラストや写真を選び、クリップアートの挿入ができるようになった。		

< 事例 5 >

課題	給食当番の仕事がクラスメイトと一緒にできる。(キャリア：調整、集団)		
教科	日常生活の指導 (給食当番)	集団	同学年 (12人)
支援	配膳におけるクラス全員の具体的な役割を朝の会で提示することで、全体の中での自分の役割を認識させ、見通しをもたせる。活動していない時は、本人の意思を確認しながら出来そうな具体的な仕事を指示する。		
変容	以前は「無理です」と言っていた仕事を、「できるところまでやってみます」と取り組むようになった。次第に、教員の指示がなくても、クラスメイトに配慮されながら、一緒に配膳をすることができるようになった。		

指導事例についての考察及びまとめ

本生徒にとっての一番の課題は、自己調整力を身につけることである。その手立てとして、学習活動の場から離れるという手段（タイムアウト）も選択できることを伝え、自分で確実に自傷や他傷、破壊行為の回避ができるよう配慮しながら指導を続けた。

現在では、パニックによる自傷や他傷、破壊行為はほとんどなくなり、自己調整することができるようになった。さらに、教室移動の際、忘れ物のファイルを取りに戻ってきたクラスメイトに対し、気を利かしてファイルを手渡す、欠席したクラスメイトのことを気遣う発言をする等、他者を意識した言動が増えつつある。

2 指定校の概要及び研究の体制

(1) 指定校の概要

ア 学級数・児童生徒数 (人)

	児童生徒数			計
	小学部	中学部	高等部	
知的障害	29	40	40	109
重複障害	6	8	7	21
計	35	48	47	130

イ 教職員数 (人)

校長 園長	副校長 教頭	主幹教諭 指導教諭 教諭	助教諭	養護教諭 養護助教諭	非常勤講師	実習助手	事務職員	寄宿舎指導員	看護師	その他	計
1	1	72	0	2	2	1	4	0	0	6	89

(2) 研究組織の整備

校長→推進委員会→職員会議→各研修グループ(授業実践)



(3) 研究協力校間の連携

山口総合支援学校の研究担当教員を本校の拡大推進委員会に招聘、また、本校の研究担当者が山口総合支援学校の委託事業連絡協議会に出席することによって、研究の互いの進捗状況等について情報交換を行う。